

## 販路開拓には連携と継続を

シンガポール事務所

新潟県と新潟市は、7月31日（金）に「新潟米宣伝会」と「新潟食の商談会」を開催し、連携して商談機会の創出を図りました。新潟県と新潟市の連携開催は今回で2回目です。

### 1 新潟食の商談会

前半では、新潟市主催「新潟食の商談会」が開催され、米、和牛、日本酒や、ケチャップなどの加工食品を取り扱う食品業者9社が参加し、レストランや小売店などと商談を行いました。レストランなど実際に食品を使用するバイヤーの参加が多く、入念に味を確かめ、材料の説明に熱心に耳を傾ける姿が多く見られました。なお、前回は、参加者のうち3社が商談会後も継続的な売込みを行い、取引に成功したとのことでした。



商談会の様子

### 2 新潟米宣伝会

引き続き開催された新潟県主催の「新潟食の商談会」では、新潟米が育った環境や米の特徴についてのプレゼンテーションの後、出展者から商品PRが行われました。また、米の美味しさを知ってもらうため、5つのレストランによる創作おにぎりを来場者に試食してもらい、美味しいおにぎりを決定するコンテストが行われ、会場が盛りあがりしました。さらに、シンガポールでおにぎり店を展開する方の講演も行われ、teri焼きサーモンなどシンガポールで人気のネタが紹介されました。おにぎりというシンプルな料理による宣伝を試みる県の新潟米に対する自信が窺えました。



おにぎり試食会

### 3 販路開拓のキーワード

来場したバイヤー数は、18社で、県と市が連携することで多様な商品を提案できています。また、業者における商談会後の継続的な売込みも、販路開拓に結びついています。

（太田所長補佐 浜松市派遣）

（梅澤所長補佐 長崎市派遣）